資料２

北海道横断自動車道　網走線（端野（たんの）～高野（たかの））

第３回　説明資料

平成３０年１２月２６日

国土交通省　北海道開発局

目　　次

１．計画段階評価の検討の流れ

２．第２回地域意見聴取結果

３．対応方針（原案）の検討

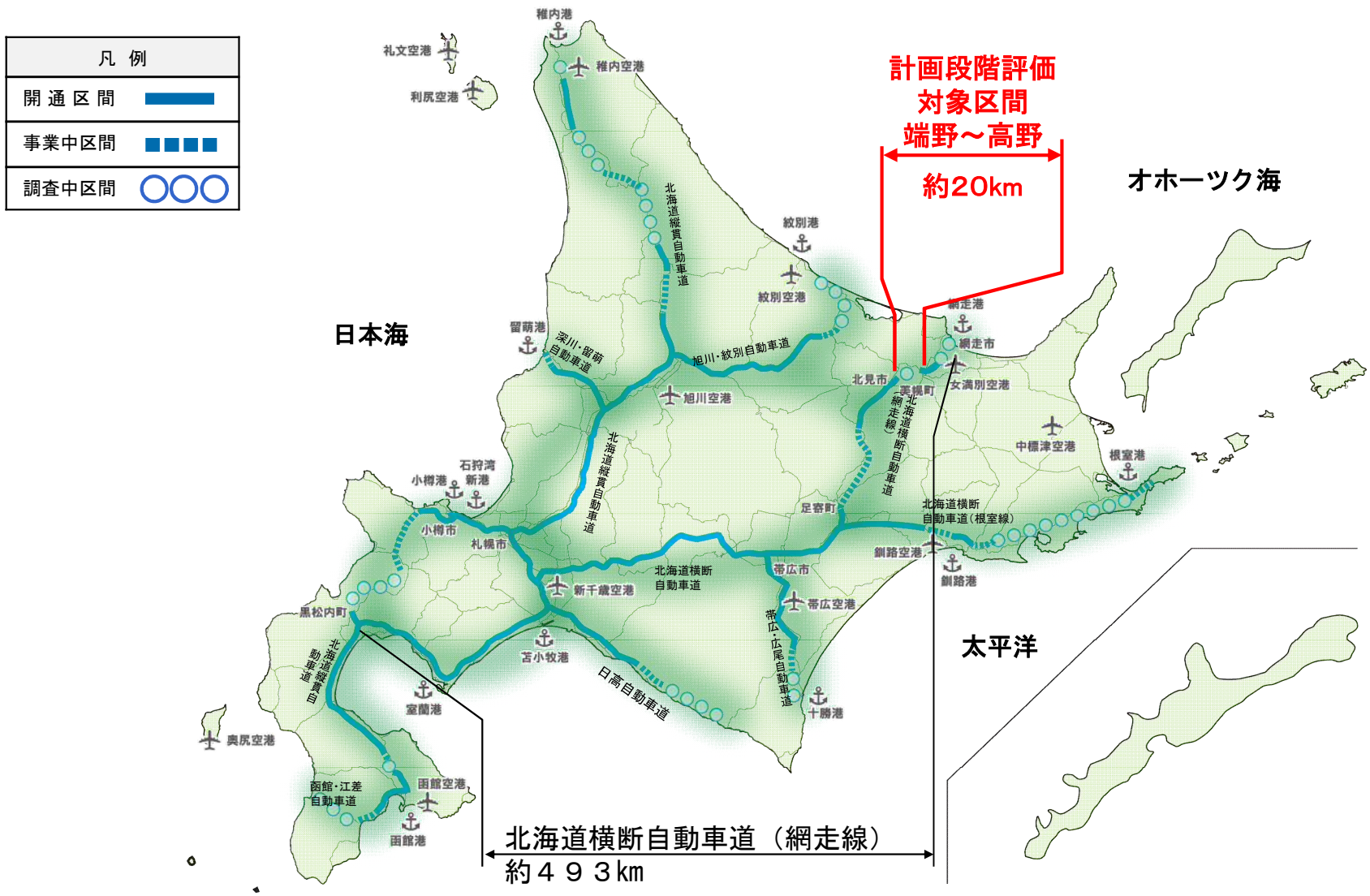
４．自治体への意見照会結果

５．対応方針（案）のまとめ

１．計画段階評価の検討の流れ

1-1） 北海道の高規格幹線道路網

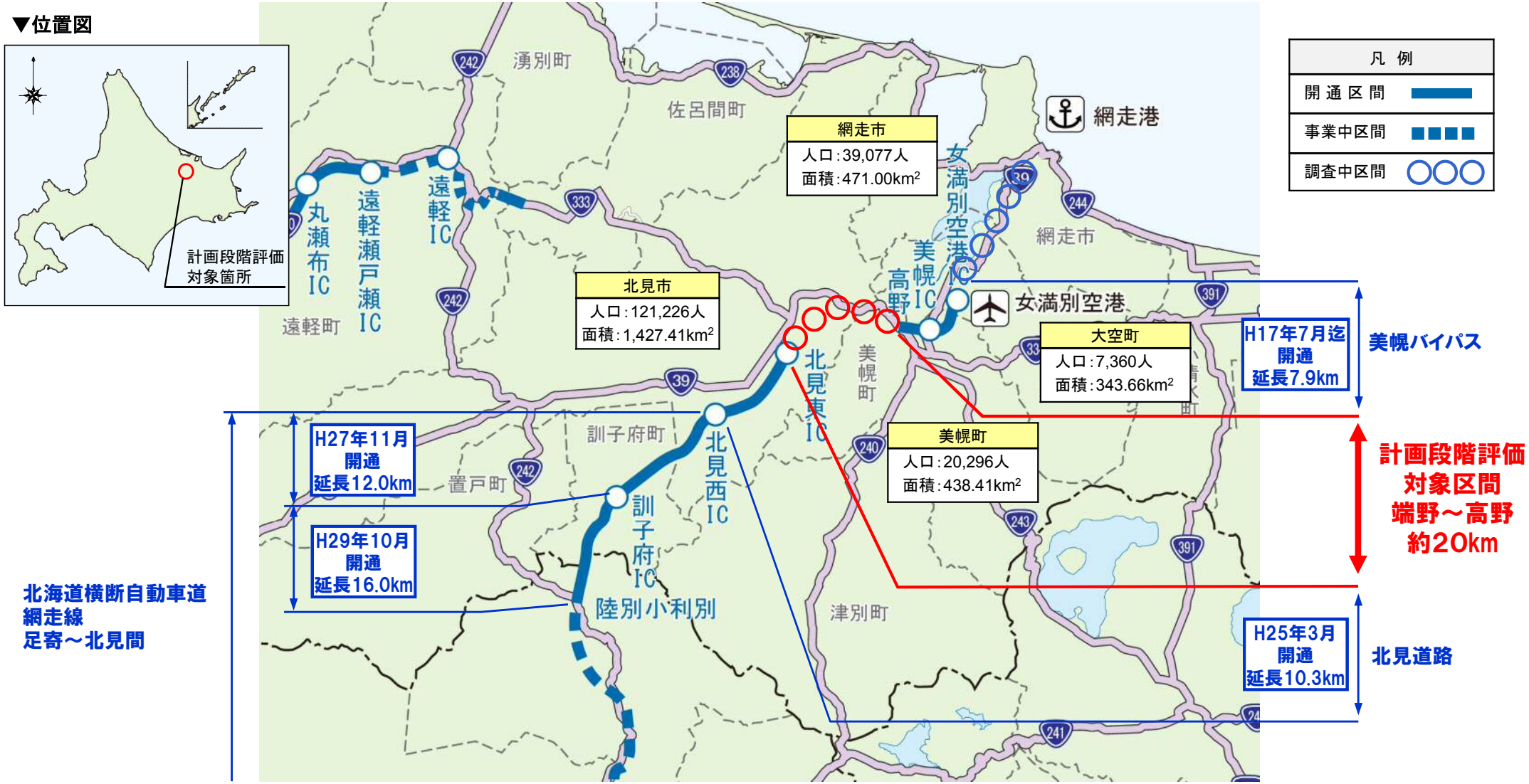
○北海道横断自動車道（網走線）は、黒松内町を起点として札幌市、帯広市、北見市等を経由し、網走市へ至る延長約493kmの道路で、端野～高野間はその一部区間。
○当該区間は、北見市と美幌町の市町境に位置し、開通済みの高規格幹線道路に挟まれた延長約20kmの区間。



1-2） 北海道横断自動車道（網走線）の進捗

○北海道横断自動車道（網走線）は、陸別小利別～北見西IC、北見道路（北見西IC～北見東IC）、美幌バイパス（高野～女満別空港IC）が開通済み。
○足寄～北見間は、訓子府IC～北見西ICが平成27年11月、陸別小利別～訓子府ICが平成29年10月に開通。

▼位置図



資料　人口：平成27年国勢調査（総務省）
面積：平成28年全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院）

1-3）計画段階評価の手続きの進め方（案）

〇平成３０年６月１１日から約３週間、第２回地域意見聴取を実施。
〇本委員会は地域意見聴取を踏まえた路線の対応方針（案）等について議論。

【平成28年12月1日】

北海道 地方小委員会

【審議内容】
■計画段階評価手続きの進め方
■地域・道路の現状と課題
■地域意見聴取方法（案）

【平成29年8月25日～9月24日】

地域意見聴取（第1回）

〇地域・道路の課題
◆意見聴取方法
〈ヒアリング〉
対象者
・沿線自治体等
・関係団体
〈アンケート〉
対象者
・地域住民
・道路利用者
・観光客

【平成30年2月9日】

北海道 地方小委員会

【審議内容】
■地域意見聴取の結果
■地域意見を踏まえた路線の政策目標（案）
■地域意見を踏まえた路線の整備方針（案）
■比較ルート（案）（複数案）
■地域意見聴取方法（案）

【平成30年6月11日～6月29日】

地域意見聴取（第2回）

〇路線の整備方針
◆意見聴取方法
〈ヒアリング〉
対象者
・沿線自治体等
・関係団体
〈アンケート〉
対象者
・地域住民
・道路利用者
・観光客

今　回

北海道 地方小委員会

【審議内容】
■地域意見聴取の結果
■対応方針（案）の検討

対応方針の決定（概略ルート・構造等）

北海道地方小委員会

※各段階で随時自治体と調整

1-4）前回委員会での主な意見と対応

■第２回計画段階評価（第１５回北海道地方小委員会）の概要

実 施 日
　　平成３０年２月９日（金）
議事内容
　　〇地域意見聴取結果　〇地域意見を踏まえた政策目標（案）　〇路線の整備方針（案）　〇第２回意見聴取方法（案）

■主な意見と対応状況

主な意見	対　応	資料
・近年の気象状況の変化から北海道においても様々な災害に見舞われ、当該地域も豪雨豪雪等の災害が多発していることを踏まえると、災害時の代替性といった防災面の視点も重要。	・「オホーツク地域の目指す姿と概況」ページを追加し、災害時の代替性に関する視点も含めた地域課題を整理。 ・3つの政策目標達成に必要な共通機能として「災害時にも機能する代替性の確保」を追記。	参考資料2：P4 参考資料2：P7
・当該地域が産業面や観光面で全国や北海道全体にとって重要な役割を担う地域であることを、次の地域意見聴取の際にも再度強調すべきではないか。	・地域意見聴取時の説明資料に、「オホーツク地域の目指す姿と概況」ページを追加し、当該地域の産業面や観光面での役割を強調。	参考資料2：P4
・物流面や医療・生活面における必要な機能は速達性で良いが、観光面は周遊性や回遊性が重要。拠点都市や観光地等多方面へアクセスしやすい道路が求められる。	・政策目標に「ひがし北海道の広域観光周遊促進」を設定し「拠点都市と空港のアクセス性が高い道路」、「各方面への周遊性が高い道路」を対策案の評価項目として考慮している。	資料2：P27
・産業面や医療面においても、速達性に加え沿線集落や国道333号等との現道アクセスができることが望ましい。	・政策目標に「地域を支える基幹産業の生産性向上」「地域の安心できる暮らしを確保」を設定し、「走行性が高く輸送効率が高い道路」、「高次医療施設のある北見市への速達性が高い道路」を評価項目として考慮している。	資料2：P27

２．第２回地域意見聴取結果

2-1） 第2回地域意見聴取の概要

○第２回地域意見聴取は、住民・道路利用者へのアンケート調査、および沿線自治体・関係団体へのヒアリング調査を実施。

■地域意見聴取期間　平成30年6月11日（月）～6月29日（金）

■地域意見聴取の対象

アンケート調査			
住民・道路利用者	配布	標本調査の手法により、各自治体の配布票数を算定し、各自治体が票数分の世帯を無作為抽出して郵送配布、郵送回収 ※大空町は地域指定郵便により全戸配布	北見市約5,300世帯 美幌町約4,800世帯 大空町約3,100世帯 網走市約5,100世帯 合計　約18,300世帯
	留置き	市役所、町役場および道の駅に調査票を常設、郵送または投函箱による回収	合計 5箇所
	Web	北海道開発局網走開発建設部のホームページに開設	一般の意見を聴取
	観光客	観光施設等（道の駅メルヘンの丘めまんべつ、道の駅流氷街道網走、道の駅おんねゆ温泉、山の水族館、女満別空港）で面談アンケート	合計 5箇所

ヒアリング調査			
自治体及び関係団体	沿線 自治体等	オホーツク総合振興局、北見市、美幌町、大空町、網走市	合計 5団体
	関係団体	商工会議所（3箇所）、商工会（2箇所）、 農業協同組合（2箇所）、漁業協同組合（2箇所）、 北海道トラック協会、運送事業者（2箇所）、 北海道バス協会、バス事業者（2箇所）、 「プライムロードひがし北・海・道」推進協議会（北海道観光振興機構）、 オホーツク観光連盟、旅行会社、 消防本部・消防組合（3箇所）、病院（3箇所）、教育委員会（4箇所）	合計 28団体

■地域意見聴取対象地域

2-2）地域意見聴取の実施状況（アンケート調査）

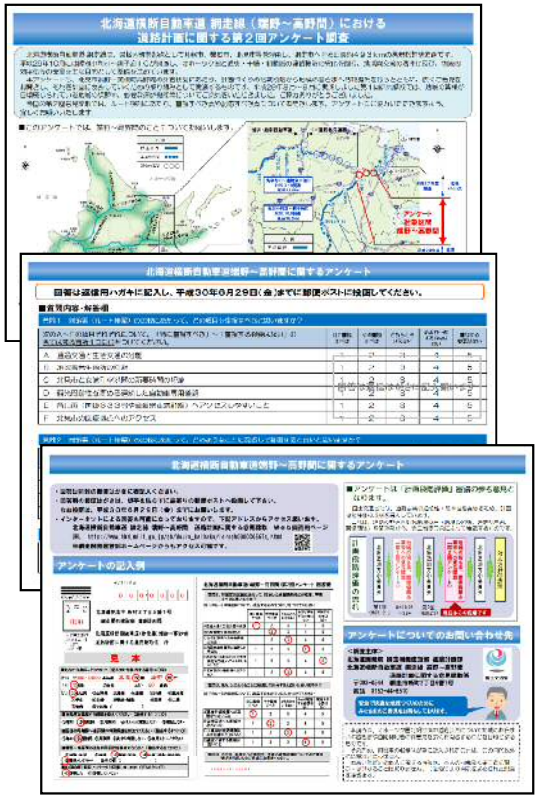
○地域住民・道路利用者に対して、対策案の比較にあたって、政策目標の重視度と配慮すべき事項について、アンケート調査を実施。

■地域意見聴取内容（アンケート調査）

回答者属性（住所、性別、年齢、職業、自動車運転頻度、端野～高野間の利用頻度・利用目的）

問１　対策案の比較にあたって、設定した道路機能をどの程度、重視すべきかについて
問２　対策案の比較にあたって、どのようなことに配慮して計画すべきかについて
問３　その他、配慮すべき項目や、今後の道路整備についての意見等について

■配布形式調査票



■Web（網走開発建設部HP）

■自治体HP・広報掲載

網走市ＨＰ掲載状況

大空町広報紙掲載状況（まちのおしらせ2018.6）

■観光客調査実施状況

メルヘンの丘めまんべつ

女満別空港

2-3） 地域意見聴取の実施状況（ヒアリング調査）

○沿線自治体・関係団体に対して、アンケート調査と同一の内容について、ヒアリング調査を実施。
○端野～高野間が新たに整備された場合の将来の利活用方法や地域間連携の取組等についても意見を聴取。

■地域意見聴取内容（ヒアリング調査）

問１　対策案の比較にあたって、設定した道路機能をどの程度、重視すべきかについて
問２　対策案の比較にあたって、どのようなことに配慮して計画すべきかについて
問３　北海道横断自動車道（端野～高野）が新たに整備された場合の利活用方法や地域間連携の取組等について
問４　その他、配慮すべき項目や、今後の道路整備についての意見等について

■実施状況

調査対象			実施数
各団体	沿線自治体等		５箇所
	産業団体	商工会等	５箇所
		農水産業関連	４箇所
		物流（輸送関連）	３箇所
		バス・観光関連	６箇所
	医療・消防	消防	３箇所
		病院	３箇所
	教育機関	教育委員会	４箇所
			３３箇所

（沿線自治体等）

（漁業協同組合）

（消防本部）

（教育委員会）

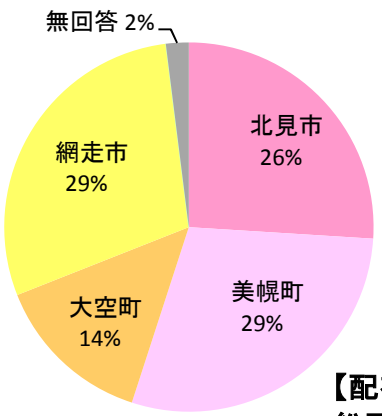
2-4） 地域意見聴取の結果　アンケート調査（回収状況・居住地）

○全回収数は5,409票で、配布形式4,475人、留置き248人、Web285人、観光面談で401人が回答。
○回答者の居住地は、沿線自治体92%、その他のオホーツク圏の市町村1%、オホーツク圏以外の道内・道外がそれぞれ3%。

▼調査票回収状況

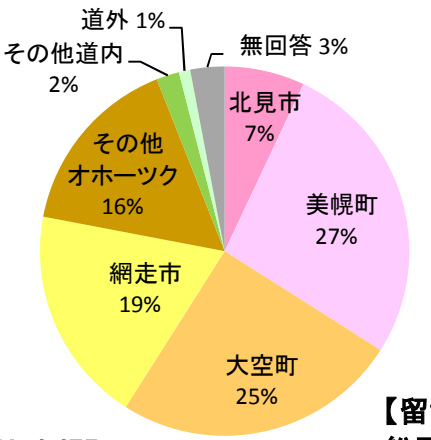
調査形式	配布数	回収数	回収率
配布（沿線自治体）	18,300票	4,475票	24%
留置き（道の駅）	―	248票	―
Web	―	285票	―
観光面談	―	401票	―
合計	―	5,409票	―

▼居住地（配布）



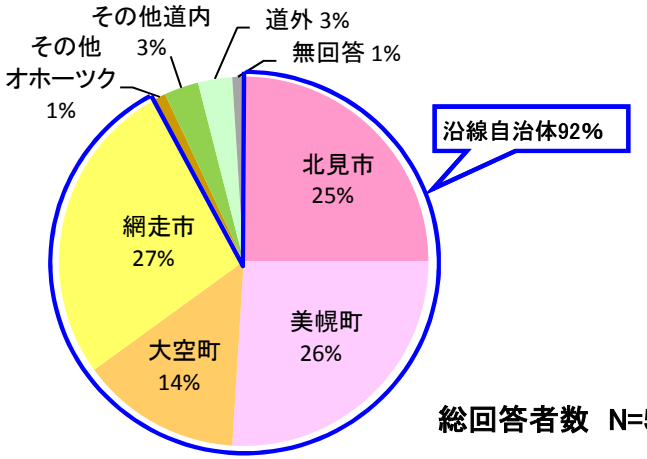
【配布】
総回答者数　N=4,475

▼居住地（留置き）



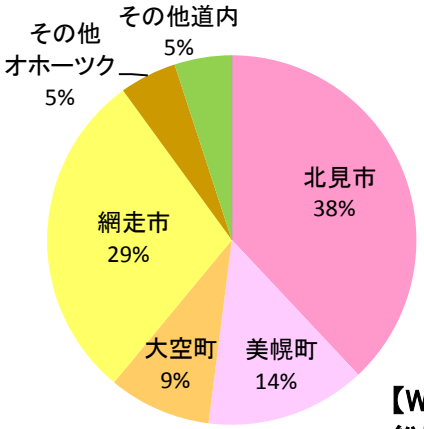
【留置き】
総回答者数　N=248

▼回答者居住地



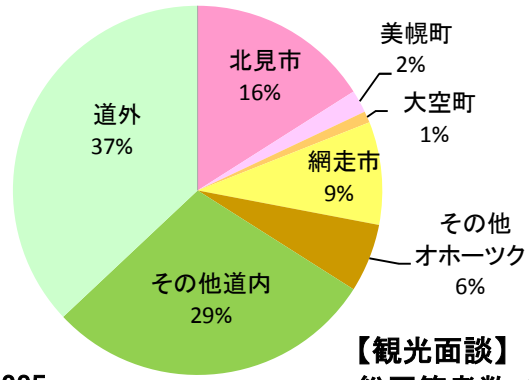
総回答者数　N=5,409

▼居住地（Web）



【Web】
総回答者数　N=285

▼居住地（観光面談）

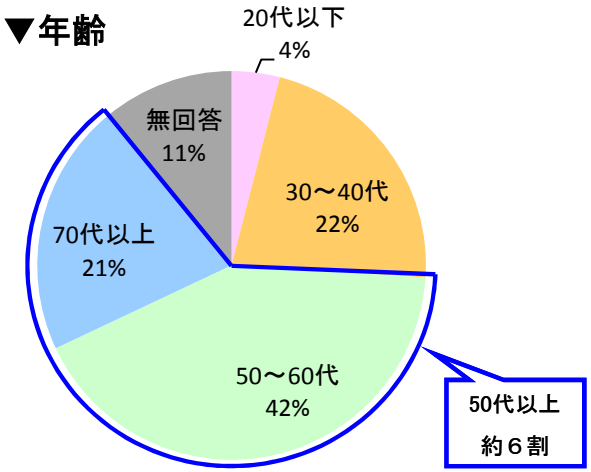


【観光面談】
総回答者数　N=401

2-5） 地域意見聴取の結果　アンケート調査（回答者属性）

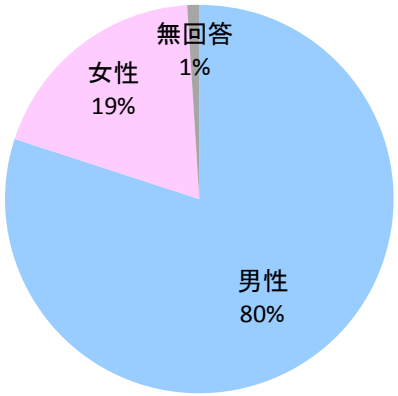
〇年齢構成は50代以上が6割以上を占め、性別の回答割合は男性が約8割、女性が約2割。
〇回答者の約6割が就業者で、非就業者・その他・無回答が約4割。
〇職業では、会社員が全回答者の3割以上と最も多く、次いで高齢者と想定される無職が約2割、公務員が約1割。

▼年齢



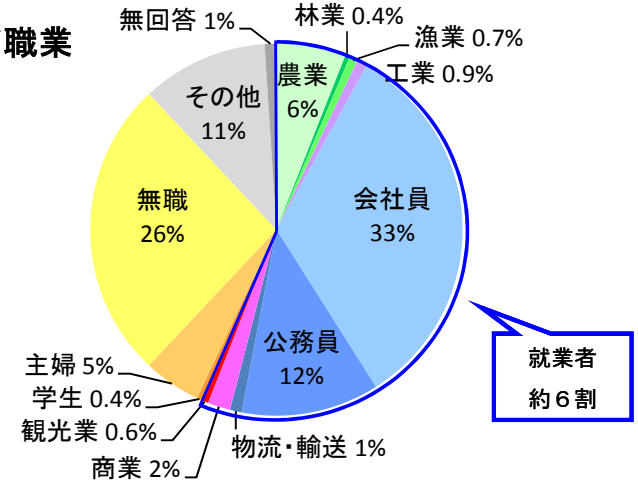
総回答者数　N=5,409

▼性別



総回答者数　N=5,409

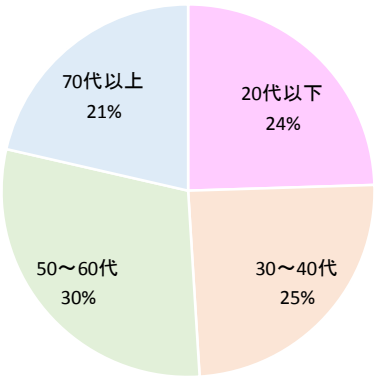
▼職業



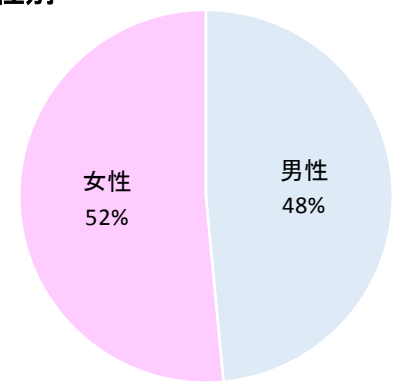
総回答者数　N=5,409

【参考】沿線自治体（北見市・網走市・美幌町・大空町）の統計データ

・年齢



・性別



・就業率

配布数	就業者数	就業率
北見市	55,971	52%
網走市	17,955	52%
美幌町	9,942	56%
大空町	3,824	59%
計	87,692	53%

※就業率＝15歳以上の人口に占める就業者の割合

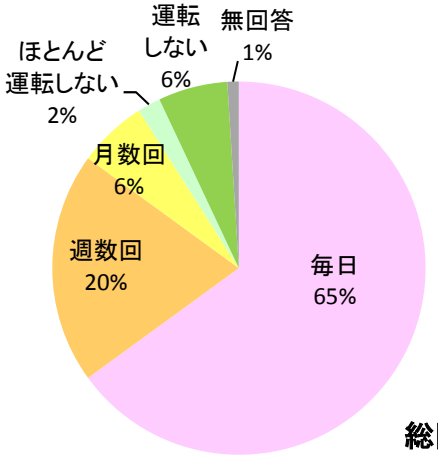
資料：H27年国勢調査

2-6）地域意見聴取の結果　アンケート調査（利用頻度等）

○回答者の約7割が自動車を毎日運転すると回答。
○端野～高野間の利用頻度は、毎日～月数回の利用者が約6割を占める。
○端野～高野間の利用目的は、家事・買物、観光・レジャー、仕事（営業・運送等）、通院の順で多い。

▼自動車を運転する頻度

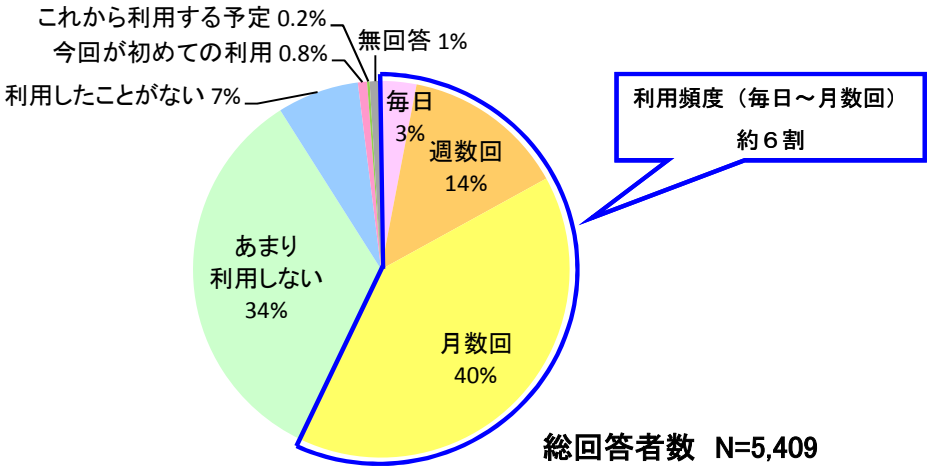
質問．自動車を運転する頻度を教えてください（単数回答）



総回答者数　N=5,409

▼国道39号端野～高野間の利用頻度

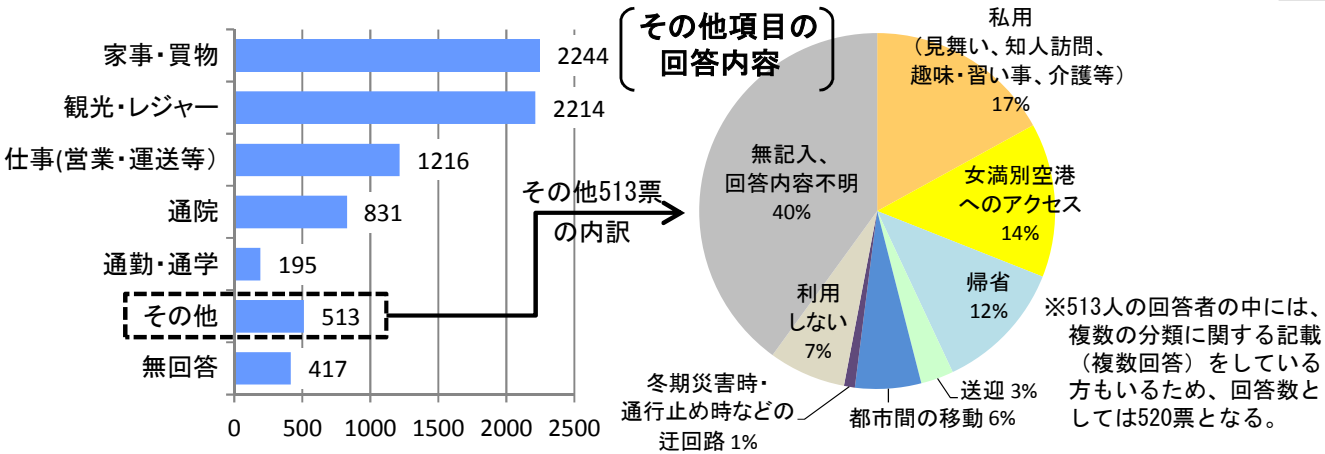
質問．国道39号端野～高野間の利用頻度を教えてください（単数回答）



総回答者数　N=5,409

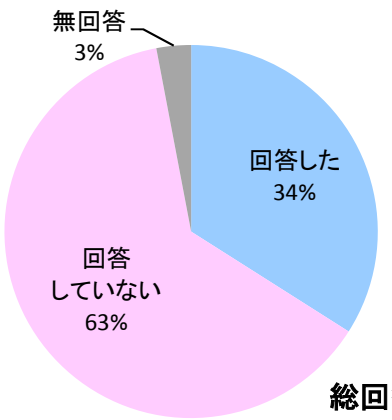
▼端野～高野間の利用目的

質問．端野～高野間の主な利用目的を教えてください（複数回答）



▼前回アンケート回答有無

質問．前回の第1回アンケートに回答しましたか（単数回答）



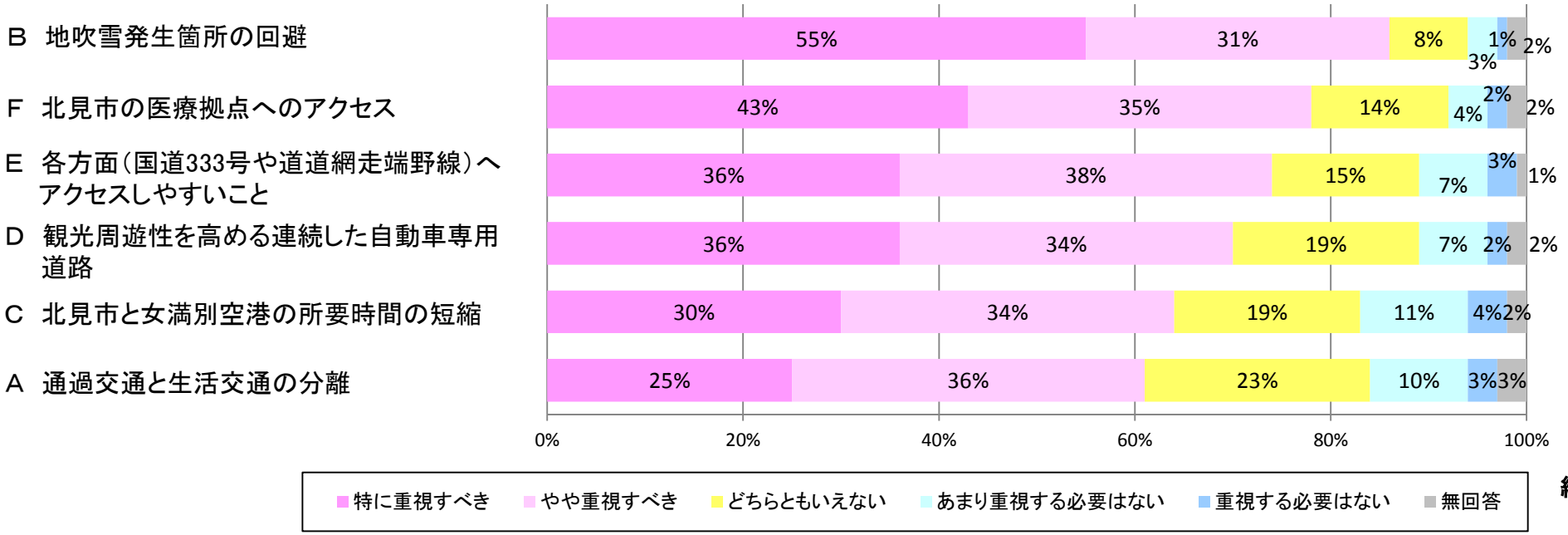
総回答者数　N=5,409

2-7） 地域意見聴取の結果　アンケート調査（重視すべき項目）

〇道路機能の重視度については、すべての項目に対し約6～9割の方が重視すべきと回答。
〇特に、「地吹雪発生箇所の回避」を重視すべきとの意見が約9割と最も多く、次いで「北見市の医療拠点へのアクセス」や「各方面へのアクセス」を重視すべきとの意見が約7～8割と多い。

▼ 対策案（ルート帯案）の比較にあたって、設定した道路機能をどの程度、重視すべきか

次のA～Fの項目それぞれについて、「特に重視すべき」～「重視する必要はない」の当てはまる箇所１つに〇をつけてください。	特に重視すべき	やや重視すべき	どちらともいえない	あまり重視する必要はない	重視する必要はない
A　通過交通と生活交通の分離	1	2	3	4	5
B　地吹雪発生箇所の回避	1	2	3	4	5
C　北見市と女満別空港間の所要時間の短縮	1	2	3	4	5
D　観光周遊性を高める連続した自動車専用道路	1	2	3	4	5
E　各方面（国道３３３号や道道網走端野線）へアクセスしやすいこと	1	2	3	4	5
F　北見市の医療拠点へのアクセス	1	2	3	4	5



総回答者数
N=5, 409

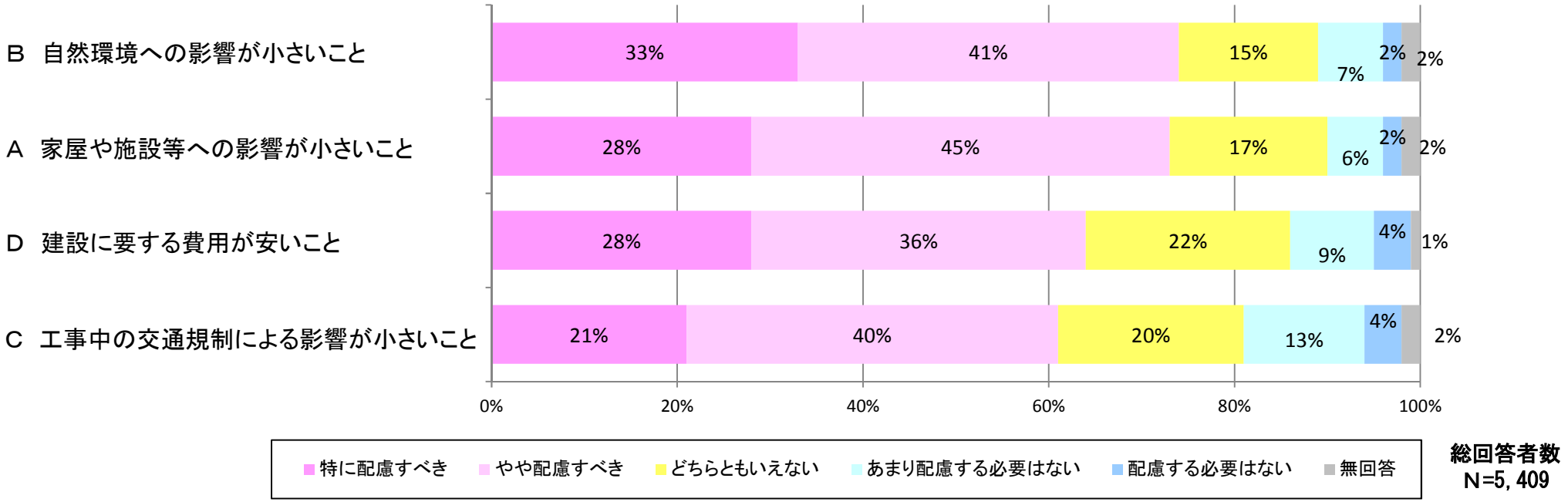
※「重視すべき」は「特に重視すべき」と「やや重視すべき」を選択した割合で記載

2-8） 地域意見聴取の結果　アンケート調査（配慮すべき事項）

〇配慮すべき事項の重視度については、すべての項目に対し約6～7割の方が配慮すべきと回答。
〇特に、「自然環境への影響」や「家屋や施設等への影響」に配慮すべきと感じている意見が約7割と多い。

▼ 対策案（ルート帯案）の比較にあたって、どのようなことに配慮して計画すべきか

次のA～Dの項目それぞれについて、「特に配慮すべき」～「配慮する必要はない」の当てはまる箇所１つに〇をつけてください。	特に配慮すべき	やや配慮すべき	どちらともいえない	あまり配慮する必要はない	配慮する必要はない
A　家屋や施設等への影響が小さいこと	1	2	3	4	5
B　自然環境への影響が小さいこと	1	2	3	4	5
C　工事中の交通規制による影響が小さいこと	1	2	3	4	5
D　建設に要する費用が安いこと	1	2	3	4	5



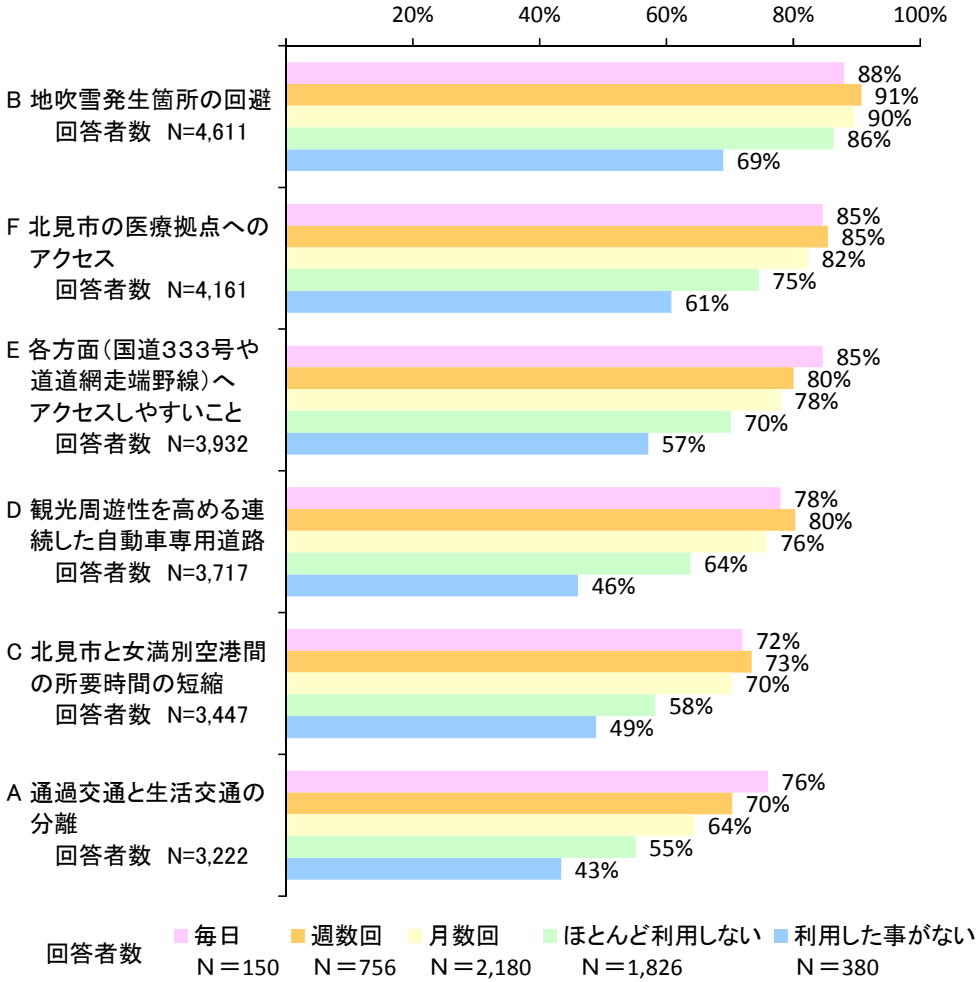
総回答者数
N=5, 409

※「配慮すべき」は「特に配慮すべき」と「やや配慮すべき」を選択した割合で記載

2-9） 地域意見聴取の結果　アンケート調査（利用頻度別意見割合）

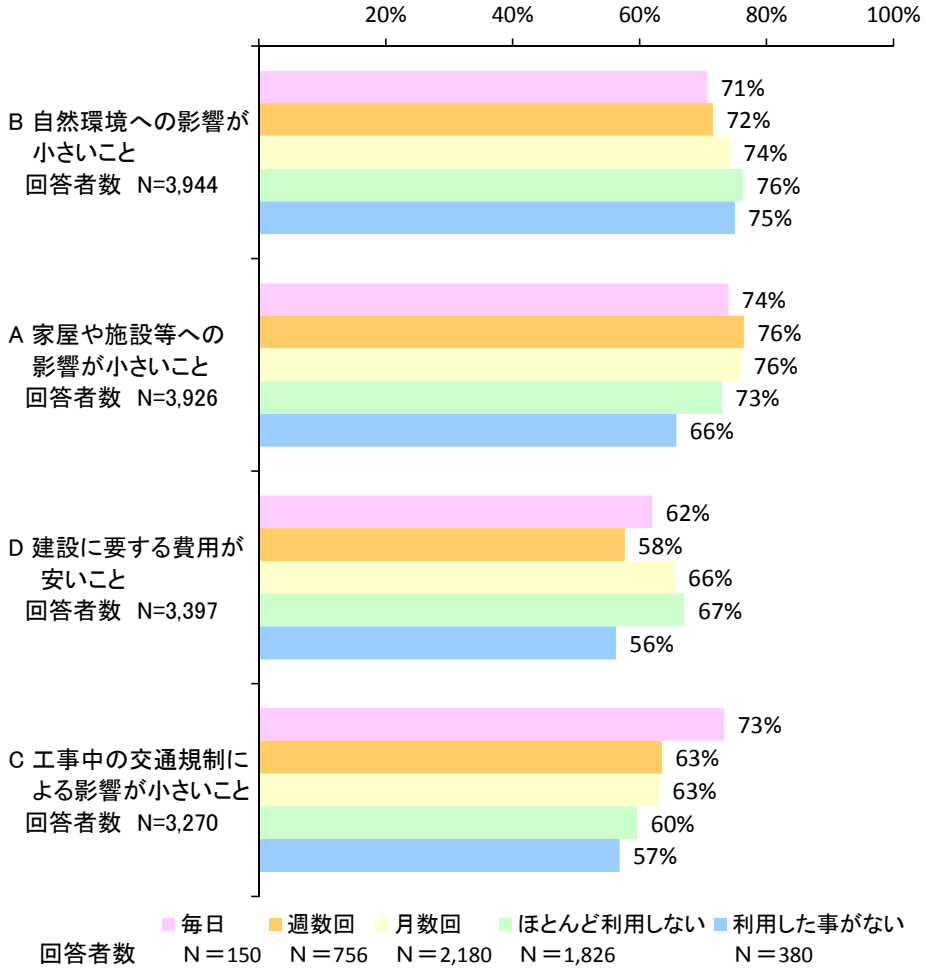
○利用頻度別では、高頻度利用者ほど、道路機能すべての項目について重視する割合が高く、特に、「地吹雪発生箇所の回避」や「北見市の医療拠点へのアクセス」「各方面へのアクセス」を重視する傾向。
○配慮すべき事項では、利用頻度にかかわらず「自然環境への影響」や「家屋や施設等への影響」に配慮すべきとの意見が多い傾向。

▼対策案（ルート帯案）比較にあたって
端野～高野間利用頻度別の重視すべき項目に対する意見割合



※「重視すべき」は「特に重視すべき」と「やや重視すべき」を選択した割合で記載

▼対策案（ルート帯案）比較にあたって
端野～高野間利用頻度別の配慮すべき事項に対する意見割合

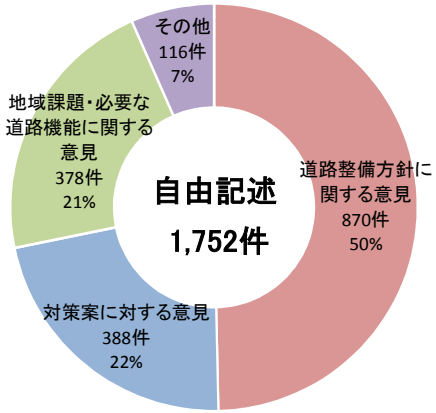


※「配慮すべき」は「特に配慮すべき」と「やや配慮すべき」を選択した割合で記載

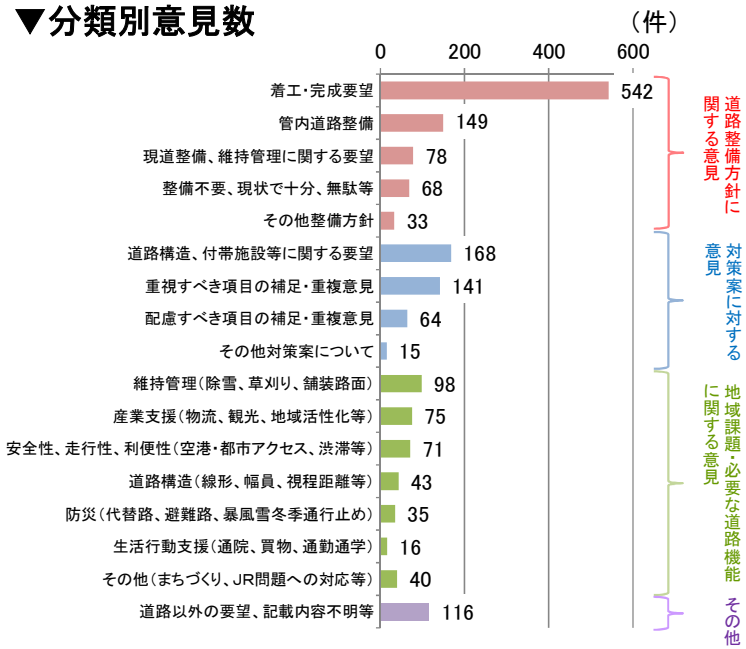
2-10）地域意見聴取の結果　アンケート調査（自由意見）

○自由意見の具体記述は、「道路整備方針に関する意見」が最も多く、全体の50%を占め、次いで「対策案に対する意見」が22%となった。「道路整備方針に関する意見」では、「着工・完成要望に関する意見」が多く寄せられた。

▼自由意見の内容内訳



▼分類別意見数



▼主な意見（道路整備方針に関する意見、対策案に対する意見）

分類		主な意見
道路整備方針に関する意見	着工・完成要望	・美幌町は年に1～2回は吹雪により陸の孤島になることがあるので、早めにルート等決めて頂き開通して頂きたいと考えています。 ・端野～高野間の高速道路は女満別空港へ行く為、必要不可欠、早く開通を望みます。
	管内道路整備	・網走～女満別までの道路整備をお願いしたい、特に冬の吹雪による視程障害の解消を早急に行って欲しい。 ・遠軽～北見道路とのアクセスは重要。遠軽北見道路が出来て道内周遊が可能。オホーツク管内も東西で縦貫し、利便がまします。
	現道整備、維持管理に関する要望	・道路を造る事も今ある道路のメンテナンスも大事。バランスをとって進めてもらいたい。
	整備不要、現状で十分、無駄等	・交通量は減少傾向。既存の道路を整備したほうが良い。
	その他整備方針	・狭い国土、多少のリスクは当然。次世代に贈る近代化を進めて欲しい。迷わず貫いて。
対策案に対する意見	道路構造、付帯施設等に関する要望	・安全性が高まり、低速車の利用も増加すると思います。定時性確保のためにも、複数車線や追い越し車線の確保を。 ・吹雪・濃霧等視界不良時の路肩表示灯を多く設置、IC・JCTの入口への誘導標識分かりやすく。
	重視すべき項目の補足・重複意見	・冬季地吹雪等による影響を受けない道路区間にしてほしい。 ・緊急な病気などですぐに病院に行けるように短縮ルートを望む。
	配慮すべき項目の補足・重複意見	・湿地は重要な自然環境です。特に配慮すべきです。
	その他対策案について	・現在ある道路にそった道路はいらない。JR線を通ってはどうか。

2-11） 地域意見聴取の結果　アンケート調査（自由意見：配慮すべき事項や意見）

○「対策案に対する意見」に次いで全体の21%を占めた「地域課題・必要な道路機能に関する意見」では、「維持管理」や「産業支援」、「安全性、走行性、利便性」に関する意見が多く寄せられた。

▼主な意見（地域課題・必要な道路機能に関する意見、その他、道路整備及び道路行政に対する意見）

分類		主な意見
地域課題・必要な道路機能に関する意見	維持管理 （除雪、草刈り、舗装路面）	・冬季になると美野峠頂上付近が路面状況が悪いので、早期着工してほしい。
	産業支援 （物流、観光、地域活性化等）	・道民の利用だけではなく道外の観光で来る人のためにも、しっかりとした幹線道路を作ることが必要だと思います。
	安全性、走行性、利便性 （空港・都市アクセス、渋滞等）	・将来的に旭川、帯広に行きやすくなったり、空港までのアクセスがしやすくなるのはとても良い。
	道路構造 （線形、幅員、視程距離等）	・当該区間は、主に空港アクセスの為に現道を利用しています。端野～高野の峠越えの部分は、カーブや勾配もきつく走りづらく感じます。
	防災 （代替路、避難路、暴風雪冬季通行止め）	・近年の異常気象に伴う自然災害時のリダンダンシー確保の観点から、主要幹線から各道路へのアクセス性を重視すべき。
	生活行動支援 （通院、買物、通勤通学）	・毎日、北見から美幌へ通勤しているので当該区間が延長すると利便性が向上し、所要時間が短縮されるので、ぜひ進めて欲しい。
	その他 （まちづくり、JR問題への対応等）	・JR在続が危ぶまれているので、それに代わる貨物輸送が可能な道路整備を望む。
その他	道路以外の要望、記載内容不明等	・工事中の事故が絶対ないことを願います。 ・道路整備方法が決定したら報道してほしい。更に工事の方法、進捗状況も常に公表してほしい。

2-12） 地域意見聴取の結果　アンケート調査（自由意見：配慮すべき事項や意見）

○第１回地域意見聴取のとりまとめにおいて、抽出していなかった防災面の視点について、第２回地域意見聴取の自由意見から整理。

質問３　その他、配慮すべき項目や、今後の道路整備についてのご意見等がありましたらご自由にお書きください。

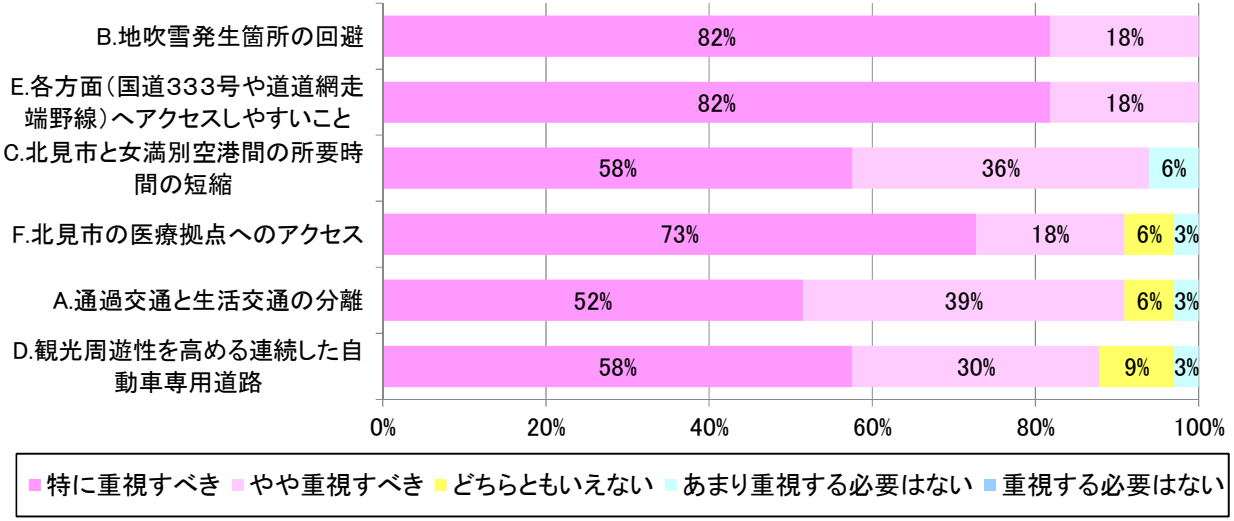
分類		主な意見
防災関連の意見【35件】	暴風雪冬期通行止め【30件】	・吹雪など災害時にも幹線道路としての機能を維持できる道路づくりを望みます。
		・端野～高野線冬通行止めになることが多く吹雪での回避を考えてほしい。
		・今現在出来てる道路、橋、トンネル等の地震、大雨、大雪対策徹底。
		・工事費はかかるが地吹雪個所の回避は人命にかかわるので必要である。
		・地吹雪で国道が通行止めになるのは避けて欲しい。通行止めにならない様なルートを確保して欲しい。
		・冬の端野、緋牛内方面の吹雪による影響が少ない方が良いと思われる。
		・美幌町は年に1～2回は吹雪により陸の孤島になることがあるので、早めにルート等決めて頂き開通して頂きたいと考えています。
		・北見市から従業員を受け入れしており、冬期（雪）による通行止めで生産に支障。雪に強い路線確保を希望。
	代替路の確保【4件】	・近年の異常気象に伴う自然災害時のリダンダンシー確保の観点から、主要幹線から各道路へのアクセス性を重視すべき。
		・冬期通行止めになった時の配慮。
	避難路・支援路の確保【1件】	・出来るだけ早く、高速道路の整備してほしい、また、最近は風雪や降雨等により、大災害の発生頻度が高く、何時大災害に直面することを考えると、今の道路では、避難路として機能が低すぎる、また、災害物資の輸送等についても同じである。地域の生活を支えるには、時間と安全な道路整備が必要不可欠である。

総回答者数 1,366人、　総意見数 1,752件

2-13） 地域意見聴取の結果　ヒアリング調査（重視すべき項目）

○道路機能の重視度については、すべての項目に対し9割以上の団体が重視すべきと回答。
○特に、すべての団体が「地吹雪発生箇所の回避」や「各方面へのアクセス」を重視すべきと回答。

▼対策案（ルート帯案）の比較にあたって、設定した道路機能をどの程度、重視すべきか



質問1．対策案（ルート帯案）の比較にあたって、設定した道路機能をどの程度、重視すべきと思いますか？

A　通過交通と生活交通の分離

B　地吹雪発生箇所の回避

C　北見市と女満別空港間の所要時間の短縮

D　観光周遊性を高める連続した自動車専用道路

E　各方面（国道333号や道道網走端野線）へアクセスしやすいこと

F　北見市の医療拠点へのアクセス

▼選択した項目が重視すべきと思う理由

総回答数　３３団体

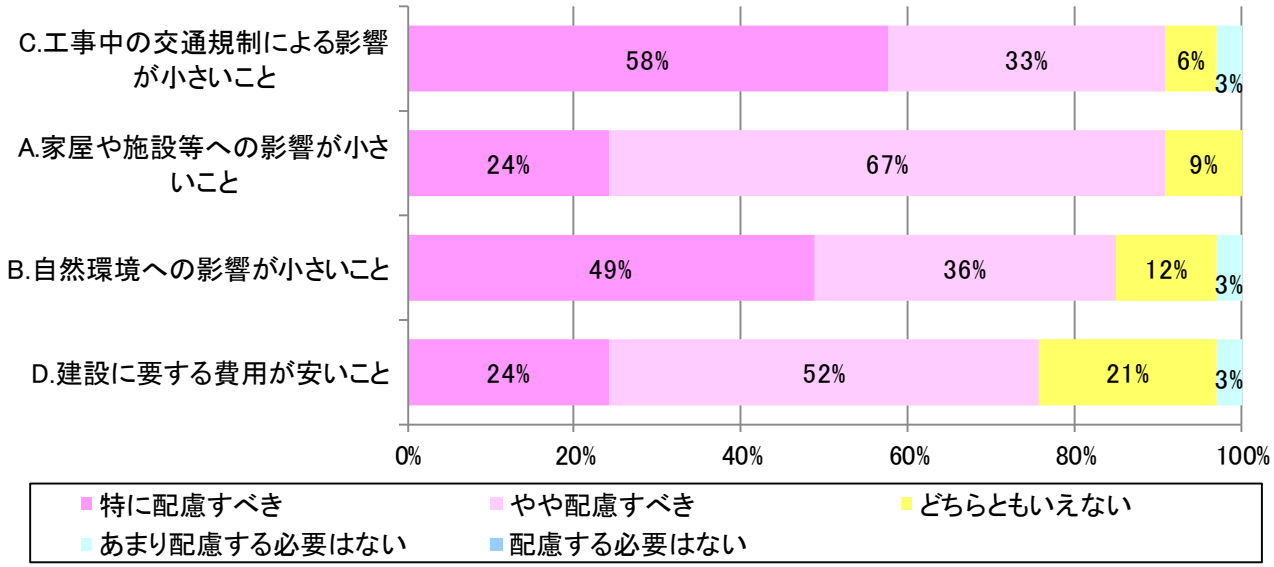
項目	主な意見
地吹雪発生箇所の回避	・端野病院近くの国道39号ドライブイン周辺は、地吹雪のため特に注意しており、美野峠付近は地吹雪を回避する道路が必要である。【バス会社】 ・冬季でも地吹雪等に影響されることない高規格道路を望んでいる。【自治体等】
各方面（国道333号や道道網走端野線）へアクセスしやすいこと	・北見の大手商業施設（イトーヨーカドーやイオン等）のオリジナルブランドや総菜などは、旭川方面の流通センターから国道333号を利用して運ばれているため、接続による利便性向上は重要である。【JA】 ・特にリスクが高い患者は、北見赤十字病院へ搬送されるため、多方面からのアクセスを考慮した道路整備が必要である。【病院】
北見市と女満別空港間の所要時間の短縮	・女満別空港から北見市への利用客が多いため、観光、ビジネスにおけるアクセス性向上の需要が高まっている。【自治体等】 ・北見で治療ができない場合、女満別空港からドクターヘリで搬送するため、1分1秒でも早い空港アクセスが求められる。【病院】
北見市の医療拠点へのアクセス	・搬送患者や治療スタッフの負担を軽減できる、安心・安全で走行性に優れた道路が必要である。【消防組合】 ・北見市民を除いて、来院が一番多い美幌町民の北見医療施設への速達性向上が期待できる。【病院】
通過交通と生活交通の分離	・通過交通と生活交通が分離されれば、輸送の際に安全に早く運べる。【漁業協同組合】 ・通過交通と生活交通を分離することで、歩行者や自転車との事故をなくすことが出来る。【北海道トラック協会】
観光周遊性を高める連続した自動車専用道路	・レンタカーの利用率が増加しているため、周遊性を高めるために高規格道路の整備は必要である。【商工会議所・商工会】 ・層雲峡、ウトロ、阿寒への観光ルートで北見を経由するため、高規格道路の整備による速達性は必要である。【バス会社】

※「重視すべき」は「特に重視すべき」と「やや重視すべき」を選択した割合で記載

2-14） 地域意見聴取の結果　ヒアリング調査（配慮すべき事項）

○配慮すべき事項の重視度については、すべての項目に対し約8～9割の団体が配慮すべきと回答。
○特に、「工事中の交通規制による影響」や「家屋や施設等への影響」について配慮すべきとの意見が約9割と多く、「特に配慮すべき」に限れば、「自然環境への影響が小さいこと」についても約5割が回答。

▼対策案（ルート帯案）の比較にあたって、どのようなことに配慮して計画すべきか



質問2. 対策案（ルート帯案）の比較にあたって、どのようなことに配慮して計画するとよいと思いますか？

A　家屋や施設等への影響が小さいこと

B　自然環境への影響が小さいこと

C　工事中の交通規制による影響が小さいこと

D　建設に要する費用が安いこと

▼選択した事項に配慮すべきと思う理由

総回答数　３３団体

項目	主な意見
工事中の交通規制による影響が小さいこと	・交通規制により現況交通の機能低下を招き、地域生活へも影響があることから配慮は必要である。【自治体等】 ・工事期間中に片側交互通行などの規制がかかると、救急搬送に影響が出るため極力やめていただきたい。【消防組合】
家屋や施設等への影響が小さいこと	・酪農、家畜、農村や工業地区への影響は少なくしてほしい。【自治体等】 ・家屋や施設等への影響は完全でなくともできるだけ配慮すべきである。【JA】
自然環境への影響が小さいこと	・オホーツク管内は、知床をはじめとした優れた自然環境も観光資源であり、自然環境への配慮が必要。【自治体等】 ・自然環境への影響は小さく。工事によって湿地帯に影響が出て、湖や河川、海が汚染されるようなことはあってほしくない。【漁業協同組合】
建設に要する費用が安いこと	・経済性への配慮は重要であるが、長期的な費用対効果が期待できなければ意味がない。【商工会議所・商工会】 ・費用面だけで考えれば、安いに越したことはないが、道路を作った際の効果も重視したい。事業のスピードも重要である。【バス会社】

※「配慮すべき」は「特に配慮すべき」と「やや配慮すべき」を選択した割合で記載

2-15） 地域意見聴取の結果　ヒアリング調査（利活用方法・地域連携の取組等）

○利活用方法・地域間連携の取組としては、農水産業、観光、地域医療、地域間交流等の観点から様々な意見が寄せられた。

▼利活用方法・地域連携の取組等

質問3. 貴団体の総合計画や将来ビジョン等にてらし、北海道横断自動車道（端野～高野）が新たに整備された場合、現在考えられている、利活用方法や地域間連携の取組等がありましたらお聞かせください。

主な意見

・オホーツクビーンズファクトリーが完成し、機能を最大限発揮するには、道路整備による農作物の輸送効率の向上を期待している。【自治体等】
・網走港で扱っている小麦の移出や輸入される石灰、石炭を北見市の製糖工場へ運ぶ際の効率性が向上すると考える。【自治体等】
・女満別空港の民営化により、LCCの乗り入れが期待できる。観光客が増加すると考えられるため、周遊性を高める道路が必要である。【商工会議所・商工会】
・現在、農産物の出荷はJRに頼らざるを得ない状況となっているため、道路整備によって輸送効率を向上させることが必要である。【JA】
・ドライバー不足の問題もあるので、早く目的地に行けるようになると、ドライバーの労働環境改善にもつながると考える。【漁業協同組合】
・魚介類の輸送先として重要なのは札幌などの道央圏および釧路・帯広である。横断道全線がつながれば、少しでも新鮮なうちに輸送することが可能になる。【漁業協同組合】
・空港からの2次交通網が整備されることにより、女満別空港と旭川空港との連携したインバウンドも含めた観光誘致を行っていきたい。【自治体等】
・国立公園満喫プロジェクトとの連携を図るために、道路整備によってアクセス性を向上させ、特にレンタカーで周遊している観光客（インバウンドも含めた）の美幌町内での滞在を促進させたい。【自治体等】
・北見東IC～高野交差点間が整備されることで、乗客のニーズや乗客数によっては、北見⇔女満別空港間での直行便を検討する可能性もある。
一方で直行便を運行する場合は、乗客が乗り降りする場所は確保しなければならないので、国道39号の北見市街の他、端野市街にも停留所を設けたい。【バス会社】
・目的地までの時間の短縮や周遊性を高めてくれると、PR活動もしやすくなり、観光客の呼び込みを図ることが出来る。【オホーツク観光連盟】
・現在、網走方面から北見市への救急搬送は道道網走端野線を利用しているが、端野～高野間が整備されれば、冬季は特に高規格道路の利用が増加する。【消防組合】
・現在、当院・網走厚生病院・北見赤十字病院との地域間連携により、搬送体制、受け入れ体制を強化してきたが、道路が整備されることによって、さらに広域な範囲での連携が図れると考えている。【病院】
・網走と北見間は、クラブの練習試合や大会での交流も盛んであるため、遠征時の保護者の送迎上のメリットがあると考えられる。【教育委員会】

総回答数　３３団体

2-16） 地域意見聴取の結果　ヒアリング調査（その他配慮すべき事項や意見）

○その他の意見・要望としては、早期整備着手や、延伸整備、高規格道路ネットワークの構築、ランデブーポイント等、様々な意見が寄せられた。
○一方、北見市内の交通量減少による商店等への影響が懸念されるという意見も寄せられている。

▼その他の意見・要望

質問4. その他、配慮すべき項目や、今後の道路整備についてのご意見等がありましたらお聞かせください。

主な意見
・オホーツク圏の観光振興や物流効率化、地域間交流の拡大、地域医療の充実等に資する当該区間について、早期着手をお願いしたい。【自治体等】 ・国道39号は、冬季に通行止めとなるため、それを回避できるような道路の整備が必要である。【自治体等】 ・将来的に網走までのアクセス性が向上することによって、既設道路を利用するよりも冬季の安全性も確保できると考えている。【商工会議所・商工会】 ・高規格道路が延伸されることにより、北見市内の交通量減少による商店等への影響が懸念される。【商工会議所・商工会】 ・現道活用するよりは、高規格道路として整備を進めてほしい。【運送】 ・自動車専用道路はネットワークとしてつながることを強く望んでいる。端野～高野はもちろんだが、足寄～陸別、女満別～網走などもつなげてほしい。【漁業協同組合】 ・道路は結ばれて効果や相乗効果が発揮される。道東の均衡ある発展のためにも道路整備が必要である。【オホーツク観光連盟】 ・サイクリストにも配慮し、高規格道路の整備によって、通過交通を減らすとともに事故リスクが減るような整備をしてもらいたい。【旅行会社】 ・道路整備の際に、道路上にランデブーポイントを整備することで、災害時に有用である。釧路の高規格道路のように道路上のランデブーポイントを整備してほしい。【消防組合】 ・若者にとっては、出産の受け入れ体制がないと魅力がなく、生活に困る地域という印象となってしまい、人口がさらに減少してしまう。医療施設の充実に加え施設へのアクセス性を確保することは人を呼び込むためには重要である。【病院】 ・女満別～美幌、陸別小利別～北見まで整備されたので、端野～高野間の開通も期待している。【教育委員会】

総回答数　３３団体

３．対応方針（原案）の検討

3-1）路線の対策案の考え方

○第１回地域意見聴取の結果を踏まえ、政策目標を設定。
○政策目標の達成に必要な機能、配慮すべき事項等を踏まえ、３つの対策案を設定。

政策目標

- 安全かつ効率的な物流ルート確保による「地域を支える基幹産業の生産性向上」
- 周遊性が高く定時性の確保による「ひがし北海道の広域観光周遊促進」
- 医療拠点への速達性向上による「地域の安心できる暮らしを確保」

政策目標達成に必要な機能

- ○交通事故が少なく安全・安心な道路
- ○走行性が高く輸送効率が高い道路
- ○拠点都市と空港のアクセス性が高い道路
- ○各方面への周遊性が高い道路
- ○高次医療施設のある北見市への速達性が高い道路

○災害時にも機能する代替性の確保

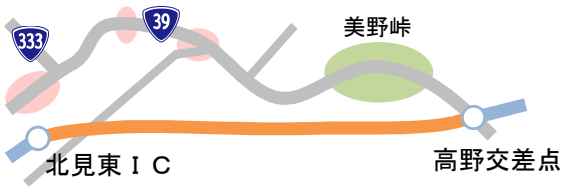
配慮すべきポイント

・地域への影響　・環境への影響　・工事中の影響　・経済性

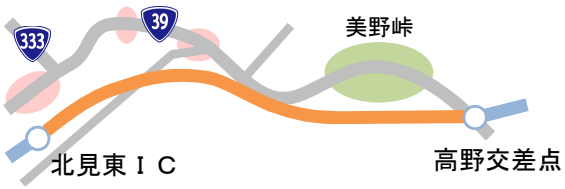
３つの対策案と整備イメージ

凡　例
- ：市街地・集落
- ：峠
- ：現道
- ：別線整備
- ：現道活用

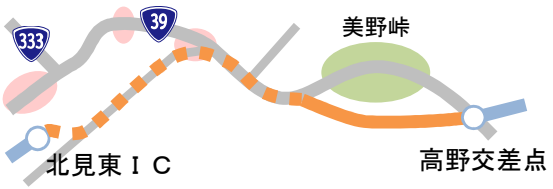
別線・短絡ルート
北見～女満別空港のアクセス向上を重視したルート



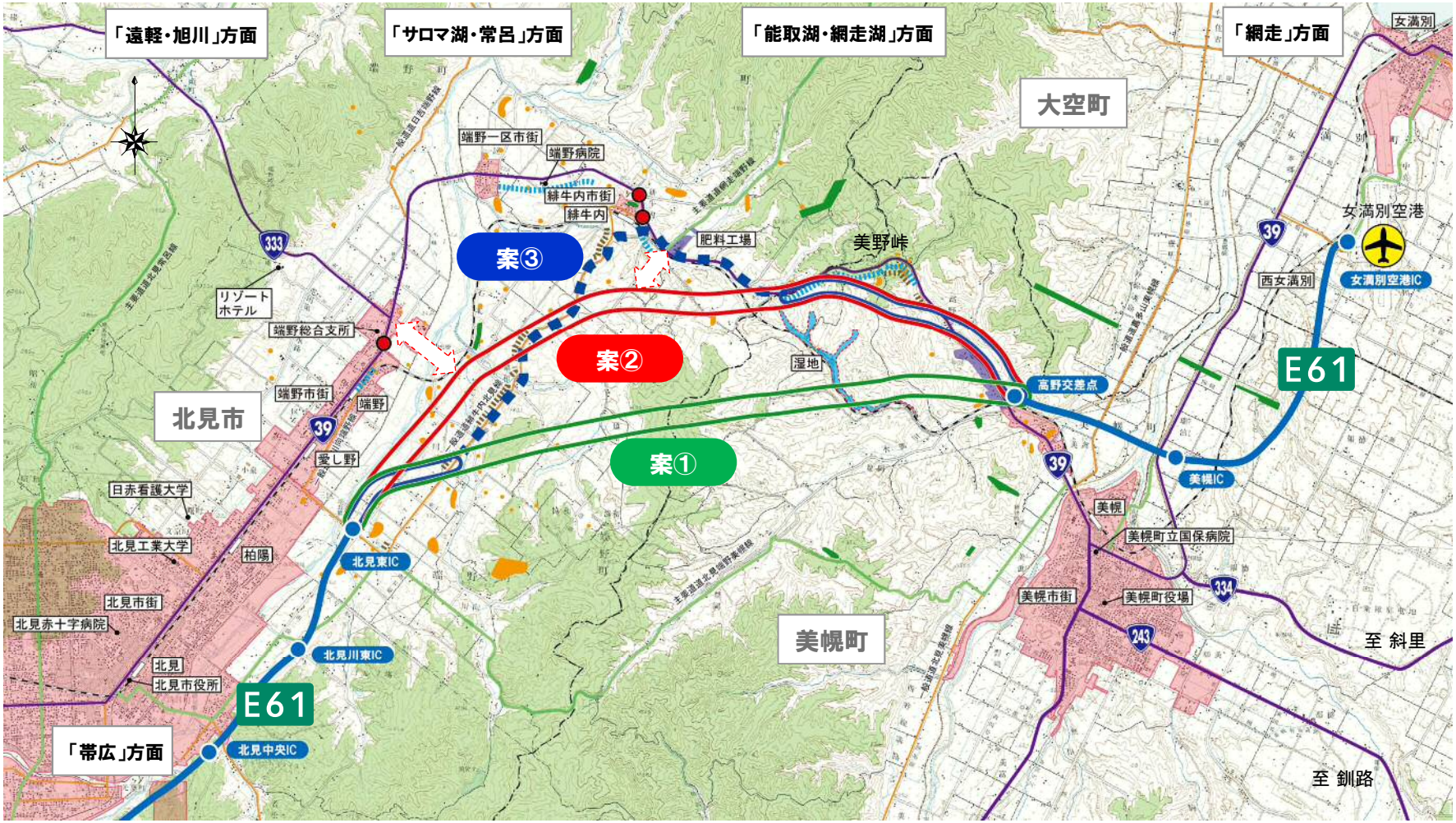
【別線・アクセス配慮ルート】
北見～女満別空港の他に遠軽・旭川、各湖方面など周辺地域へのアクセスも考慮したルート



【現道活用・一部バイパスルート】
現道を部分的に活用し、局所的な改良を行うルート



3-2） 対策案の概要



凡　例

- 計画ルート
- 高規格幹線道路（一般国道自動車専用道路）
- 一般国道
- 主要道道
- 一般道道
- 標高100m以上エリア
- 事故多発箇所
- 市街地・集落
- 工場団地
- 保安林など
- 遺跡
- 貴重な湿地
- 地吹雪多発箇所
- 縦断勾配i>4%箇所

※地吹雪多発箇所は、雪況調査、維持除雪業者や有識者ヒアリング結果を踏まえた、吹雪による障害発生の危険性が高い箇所

案①　別線・短絡ルート
（北見－女満別空港のアクセス向上を重視したルート）

- 山地部はトンネル構造で通過して延長を短縮し、全線で新たな自動車専用道路を整備
- 北見市方面から女満別空港・網走市へのアクセス性に優れる
- 区間延長は短いが山地部を通過しトンネル構造となり経済性に劣る

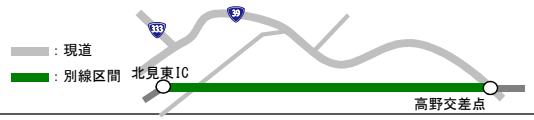
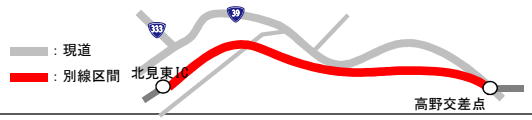
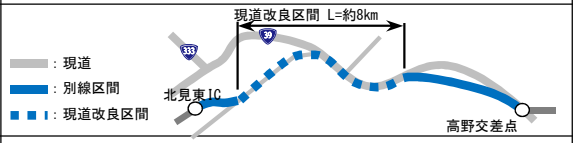
案②　別線・アクセス配慮ルート
（北見－女満別空港の他に遠軽・旭川、各湖方面など周辺地域へのアクセスも考慮したルート）

- 地形改変等に配慮し、全線で新たな自動車専用道路を整備
- 現道に比較的近いため中間ＩＣの設置が可能であり、遠軽・旭川、各湖方面へのアクセス性に優れる
- 案①に比べ延長は長くなる

案③　現道活用・一部バイパスルート
（現道を部分的に活用し、局所的な改良を行うルート）

- 北見市側の区間は一般道道及び国道を活用(拡幅・改良)、美幌町側を新たな自動車専用道路で整備
- 現道を活用するため、コスト・周辺地域・自然環境への影響が少ない
- 女満別空港と北見市は直結せず、所要時間はあまり短縮できない

3-3）対策案の比較評価

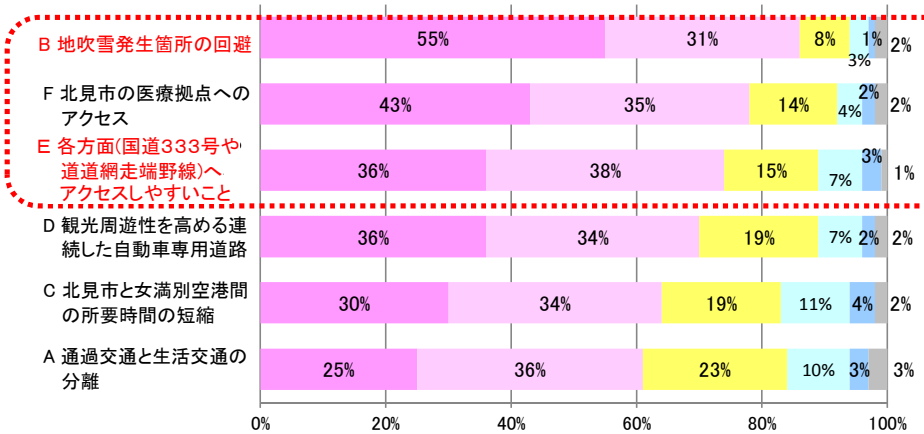
			【案①】別線・短絡ルート		【案②】別線・アクセス配慮ルート		【案③】現道活用・一部バイパスルート	
対策案の考え方			北見～女満別空港のアクセス向上を重視したルート		北見～女満別空港の他に遠軽・旭川、各湖方面など周辺地域へのアクセスも考慮したルート		現道を部分的に活用し、局所的な改良を行うルート	
整備イメージ								
区間延長			約１３ｋｍ（自動車専用道路）		約１４ｋｍ（自動車専用道路）		約１６ｋｍ（自動車専用道路＋現道改良）	
政策目標	安全かつ効率的な物流ルート確保による「地域を支える基幹産業の生産性向上」	交通事故が少なく安全安心な道路	・貨物輸送と生活交通の分離により安全性が向上する ・事故多発箇所を回避できる	◎	・貨物輸送と生活交通の分離により安全性が向上する ・事故多発箇所を回避できる	◎	・現道改良区間では貨物輸送と生活交通の分離はできない ・事故多発箇所を回避できる	△
		走行性が高く輸送効率が高い道路	・急勾配箇所を回避できる ・地吹雪発生箇所を全て回避できる	◎	・急勾配箇所を回避できる ・地吹雪発生箇所を全て回避できる	◎	・急勾配箇所が一部回避できない ・地吹雪発生箇所が一部回避できない	△
	周遊性が高く定時性の確保による「ひがし北海道の広域観光周遊促進」	拠点都市と空港のアクセス性が高い道路	・女満別空港と北見市が直結し、所要時間が最も短縮できる	◎	・女満別空港と北見市が直結し、所要時間が短縮できる	○	・女満別空港と北見市は直結せず、所要時間があまり短縮できない	△
		各方面への周遊性が高い道路	・各方面への接続が困難でありアクセス向上は図られない	×	・遠軽・旭川、サロマ湖、能取湖など各方面へのアクセス向上が図れる	◎	・現状とほぼ変わらない	△
	医療拠点への速達性向上による「地域の安心できる暮らしを確保」	高次医療施設のある北見市への速達性が高い道路	・北見市60分圏域内人口が増加する ・２次医療施設がある網走市が圏域内になる	◎	・北見市60分圏内人口が増加する ・２次医療施設がある網走市が圏域内になる	◎	・北見市60分圏内人口があまり増加しない ・２次医療施設のある網走市が圏域外のまま	△
配慮すべき事項	地域への影響	家屋や施設等への影響	・家屋等への影響は小さい ・工業団地を横断する	△	・家屋等への影響は小さい	○	・家屋等への影響は最も小さい	◎
	環境への影響	自然環境への影響	・樹林地のほか、貴重な湿地帯を通過するため案③に比較して大きくなる可能性がある	△	・樹林地を通過するため案③に比較して大きくなる可能性がある	○	・現道を多く活用するため比較的小さい	◎
	工事中の影響	工事中の現道交通への影響	・工事中の現道への影響は小さい	◎	・工事中の現道への影響は小さい	◎	・現道改良区間は影響が大きく通行規制が必要	△
	経済性	経済性	・区間延長は短いが山地部を通過しトンネル構造となり経済性に劣る 約５９０～６５０億円	△	・区間延長は案①に比べ長くなるが、土工バランスが図られ経済性に優れる 約４６０～５００億円	○	・現道を活用することでコストが抑えられ、案①、案②に比較して経済性に優れる 約３００～３４０億円	◎

※比較表の評価は、現時点で想定される概ねのルートの評価を一般的な目安として記載。
政　策　目　標：【凡例】◎：達成できる　○：概ね達成できる　△：部分的に達成できる　×：達成できない
配慮すべき事項：【凡例】◎：影響小さい　○：影響比較的小さい　△：他案に比べ劣る　―：現在と変わらない

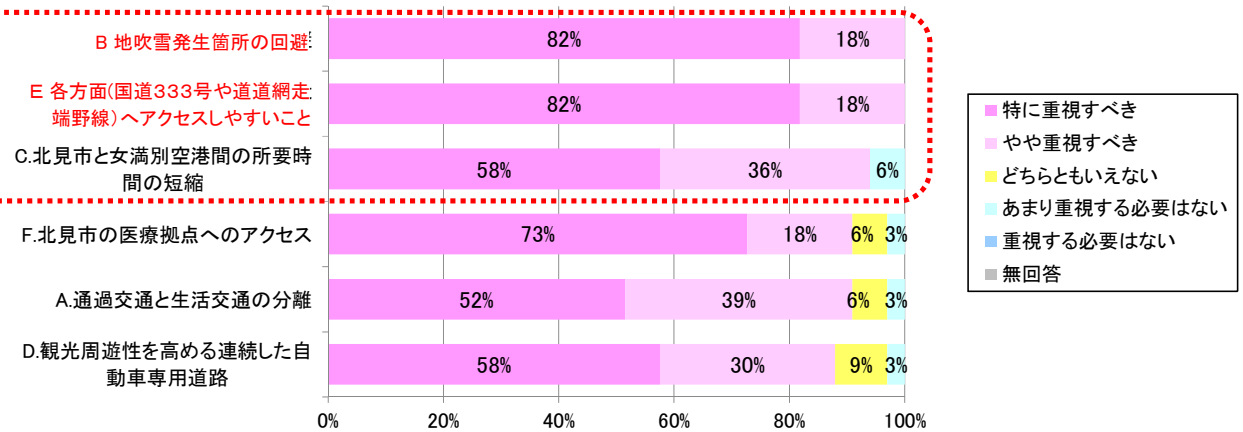
3-4）対策案の比較評価 （対策案選定時に重視すべき項目）

○道路機能の重視度については、すべての項目に対しアンケート結果では約6割以上、ヒアリング結果では約9割以上が重視すべきと回答。
○アンケート及びヒアリング結果の上位では、「地吹雪発生箇所の回避」、「各方面（国道３３３号や道道網走端野線）へアクセスしやすいこと」が双方で重視されている。

【アンケート】



【ヒアリング】



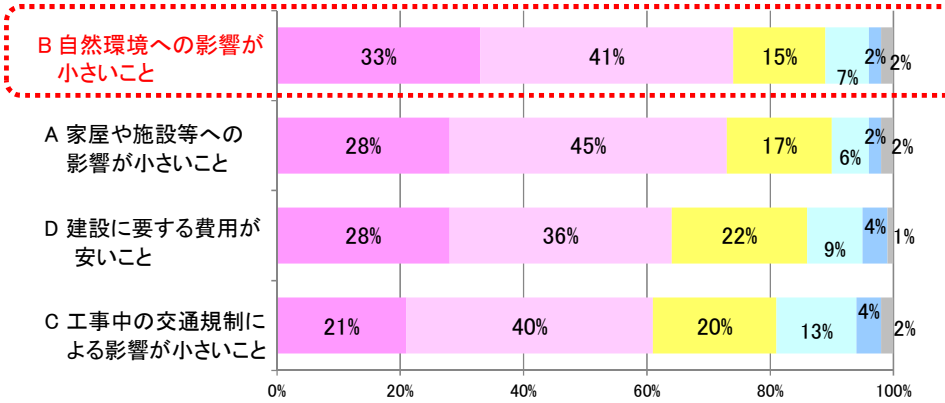
対策案の考え方			【案①】別線・短絡ルート		【案②】別線・アクセス配慮ルート		【案③】現道活用・一部バイパスルート	
政策目標	安全かつ効率的な物流ルート確保による「地域を支える基幹産業の生産性向上」	交通事故が少なく安全安心な道路	・貨物輸送と生活交通の分離により安全性が向上する ・事故多発箇所を回避できる	◎	・貨物輸送と生活交通の分離により安全性が向上する ・事故多発箇所を回避できる	◎	・現道改良区間では貨物輸送と生活交通の分離はできない ・事故多発箇所を回避できる	△
		走行性が高く輸送効率が高い道路	・急勾配箇所を回避できる ・地吹雪発生箇所を全て回避できる	◎	・急勾配箇所を回避できる ・地吹雪発生箇所を全て回避できる	◎	・急勾配箇所が一部回避できない ・地吹雪発生箇所が一部回避できない	△
	周遊性が高く定時性の確保による「ひがし北海道の広域観光周遊促進」	拠点都市と空港のアクセス性が高い道路	・女満別空港と北見市が直結し、所要時間が最も短縮できる	◎	・女満別空港と北見市が直結し、所要時間が短縮できる	○	・女満別空港と北見市は直結せず、所要時間があまり短縮できない	△
		各方面への周遊性が高い道路	・各方面への接続が困難でありアクセス向上は図られない	×	・遠軽・旭川、サロマ湖、能取湖など各方面へのアクセス向上が図れる	◎	・現状とほぼ変わらない	△
	医療拠点への速達性向上による「地域の安心できる暮らしを確保」	高次医療施設のある北見市への速達性が高い道路	・北見市60分圏域内人口が増加する ・２次医療施設がある網走市が圏域内になる	◎	・北見市60分圏内人口が増加する ・２次医療施設がある網走市が圏域内になる	◎	・北見市60分圏内人口があまり増加しない ・２次医療施設のある網走市が圏域外のまま	△

※比較表の評価は、現時点で想定される概ねのルートの評価を一般的な目安として記載。【凡例】◎：達成できる　○：概ね達成できる　△：部分的に達成できる
※比較表の着色部 ■ は、アンケート及びヒアリングの双方で重視されている上位の項目。

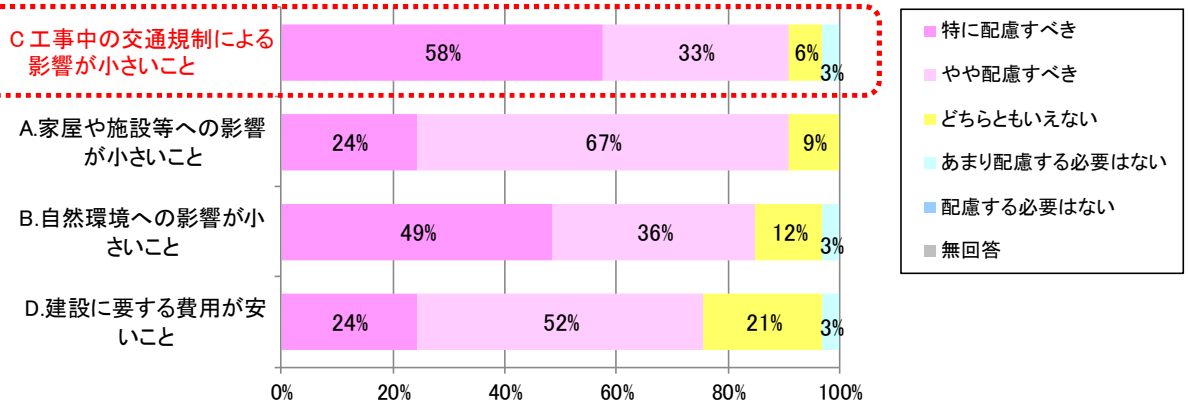
3-5）対策案の比較評価 （対策案選定時に配慮すべき事項）

○配慮すべき事項の重視度については、すべての項目に対しアンケート結果では約6割以上、ヒアリング結果では約8割以上が配慮すべきと回答。
○アンケート結果では「自然環境への影響が小さいこと」、関係団体ヒアリング結果では「工事中の交通規制による影響が小さいこと」が最も重視されている。

【アンケート】



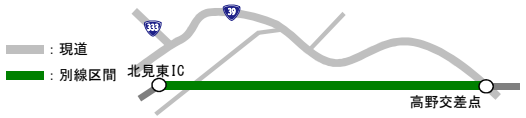
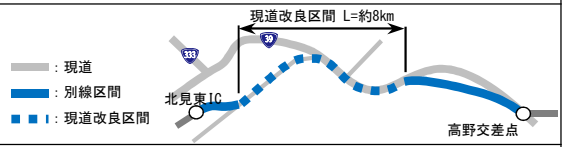
【ヒアリング】



対策案の考え方			【案①】別線・短絡ルート		【案②】別線・アクセス配慮ルート		【案③】現道活用・一部バイパスルート	
配慮すべき事項	地域への影響	家屋や施設等への影響	・家屋等への影響は小さい ・工業団地を横断する	△	・家屋等への影響は小さい	○	・家屋等への影響は最も小さい	◎
	環境への影響	自然環境への影響	・樹林地のほか、貴重な湿地帯を通過するため案③に比較して大きくなる可能性がある	△	・樹林地を通過するため案③に比較して大きくなる可能性がある	○	・現道を多く活用するため比較的小さい	◎
	工事中の影響	工事中の現道交通への影響	・工事中の現道への影響は小さい	◎	・工事中の現道への影響は小さい	◎	・現道改良区間は影響が大きく通行規制が必要	△
	経済性	経済性	・区間延長は短いが山地部を通過しトンネル構造となり経済性に劣る	△	・区間延長は案①に比べ長くなるが、土工バランスが図られ経済性に優れる	○	・現道を活用することでコストが抑えられ、案①、案②に比較して経済性に優れる	◎
			約５９０～６５０億円		約４６０～５００億円		約３００～３４０億円	

※比較表の評価は、現時点で想定される概ねのルートの評価を一般的な目安として記載。【凡例】◎：影響小さい　○：影響比較的小さい　△：他案に比べ劣る
※比較表の着色部 ▭ は、アンケート、ヒアリングで最も重視されている項目。

3-6）対応方針(原案)の検討

			【案①】　別線・短絡ルート		【案②】　別線・アクセス配慮ルート		【案③】　現道活用・一部バイパスルート	
対策案の考え方			北見～女満別空港のアクセス向上を重視したルート		北見～女満別空港の他に遠軽・旭川、各湖方面など周辺地域へのアクセスも考慮したルート		現道を部分的に活用し、局所的な改良を行うルート	
整備イメージ								
区間延長			約１３ｋｍ（自動車専用道路）		約１４ｋｍ（自動車専用道路）		約１６ｋｍ（自動車専用道路＋現道改良）	
政策目標	安全かつ効率的な物流ルート確保による「地域を支える基幹産業の生産性向上」	交通事故が少なく安全安心な道路	・貨物輸送と生活交通の分離により安全性が向上する ・事故多発箇所を回避できる	◎	・貨物輸送と生活交通の分離により安全性が向上する ・事故多発箇所を回避できる	◎	・現道改良区間では貨物輸送と生活交通の分離はできない ・事故多発箇所を回避できる	△
		走行性が高く輸送効率が高い道路	・急勾配箇所を回避できる ・地吹雪発生箇所を全て回避できる	◎	・急勾配箇所を回避できる ・地吹雪発生箇所を全て回避できる	◎	・急勾配箇所が一部回避できない ・地吹雪発生箇所が一部回避できない	△
	周遊性が高く定時性の確保による「ひがし北海道の広域観光周遊促進」	拠点都市と空港のアクセス性が高い道路	・女満別空港と北見市が直結し、所要時間が最も短縮できる	◎	・女満別空港と北見市が直結し、所要時間が短縮できる	○	・女満別空港と北見市は直結せず、所要時間があまり短縮できない	△
		各方面への周遊性が高い道路	・各方面への接続が困難でありアクセス向上は図られない	×	・遠軽・旭川、サロマ湖、能取湖など各方面へのアクセス向上が図れる	◎	・現状とほぼ変わらない	△
	医療拠点への速達性向上による「地域の安心できる暮らしを確保」	高次医療施設のある北見市への速達性が高い道路	・北見市60分圏域内人口が増加する ・２次医療施設がある網走市が圏域内になる	◎	・北見市60分圏内人口が増加する ・２次医療施設がある網走市が圏域内になる	◎	・北見市60分圏内人口があまり増加しない ・２次医療施設のある網走市が圏域外のまま	△
配慮すべき事項	地域への影響	家屋や施設等への影響	・家屋等への影響は小さい ・工業団地を横断する	△	・家屋等への影響は小さい	○	・家屋等への影響は最も小さい	◎
	環境への影響	自然環境への影響	・樹林地のほか、貴重な湿地帯を通過するため案③に比較して大きくなる可能性がある	△	・樹林地を通過するため案③に比較して大きくなる可能性がある	○	・現道を多く活用するため比較的小さい	◎
	工事中の影響	工事中の現道交通への影響	・工事中の現道への影響は小さい	◎	・工事中の現道への影響は小さい	◎	・現道改良区間は影響が大きく通行規制が必要	△
	経済性	経済性	・区間延長は短いが山地部を通過しトンネル構造となり経済性に劣る 約５９０～６５０億円	△	・区間延長は案①に比べ長くなるが、土工バランスが図られ経済性に優れる 約４６０～５００億円	○	・現道を活用することでコストが抑えられ、案①、案②に比較して経済性に優れる 約３００～３４０億円	◎

対応方針(原案)

比較評価の結果、対応方針(原案)については全ての政策目標の達成が概ね見込め、かつ、地域が望む重視･配慮すべき項目に適切に対応可能な

【案②】別線･アクセス配慮ルートを対応方針(原案)とする。

４．自治体への意見照会結果

4-1） 自治体への意見照会結果〔対応方針（原案）に対する意見〕

▼意見照会の回答（要旨）

自治体名	意　見
北海道	○北海道横断自動車道網走線（端野～高野間）の対応方針（原案）について同意します。 ○本道における高規格幹線道路ネットワークは、圏域間の交流拡大や広域観光の振興、地域経済の活性化への貢献のほか、大規模災害における代替路の確保など、道民生活や経済の面で重要な役割を果たすものです。 ○中でも、ミッシングリンクである端野～高野間の整備は、女満別空港へのアクセス強化による広域周遊観光への貢献、地元農水産物の輸送をはじめとする物流の効率化、冬季の安全で確実な交通の確保、北見市の高次医療施設への救急搬送時間の短縮など多くの効果を発揮するものと考えています。 ○このため、北海道としても、事業化の際には当該区間の整備効果が最大限発揮されるよう、関係市町と連携してアクセス機能の強化に努めてまいりますので、早期に事業化が図られるとともに、対応方針の決定に際しては、地域の意見を十分に反映していただくよう特段のご配慮をお願いいたします。

▼自治体意見照会の回答（北海道知事）

建 政 第 ６ ８ ０ 号
平成３０年１２月２０日

北海道開発局長　水島　徹治　様

北海道知事　高橋　はるみ

道路事業の計画段階評価に係る意見照会について（回答）

日頃から北海道の建設行政の推進につきましては、格別の御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成３０年１２月１７日付け北開局道計第７４号で照会のありましたこのことについて、次のとおり回答いたします。

記

北海道横断自動車道網走線（端野～高野間）の対応方針（原案）について同意します。

本道における高規格幹線道路ネットワークは、圏域間の交流拡大や広域観光の振興、地域経済の活性化への貢献のほか、大規模災害における代替路の確保など、道民生活や経済の面で重要な役割を果たすものです。

中でも、ミッシングリンクである端野～高野間の整備は、女満別空港へのアクセス強化による広域周遊観光への貢献、地元農水産物の輸送をはじめとする物流の効率化、冬季の安全で確実な交通の確保、北見市の高次医療施設への救急搬送時間の短縮など多くの効果を発揮するものと考えています。

このため、北海道としても、事業化の際には当該区間の整備効果が最大限発揮されるよう、関係市町と連携してアクセス機能の強化に努めてまいりますので、早期に事業化が図られるとともに、対応方針の決定に際しては、地域の意見を十分に反映していただくよう特段のご配慮をお願いいたします。

連絡先
建設部建設政策局建設政策課
政策調整グループ　主査（公共評価）
TEL　011-231-4111　内線29-124
FAX　011-232-9162

５．対応方針（案）のまとめ

5-1） 対応方針（案）

1. 道路整備の必要性

【課題】

○当該地域は、日本有数の食糧供給基地であるが、長距離輸送を要し、災害時の代替性も低く、輸送の確実性・安全性の向上、効率化が課題。

○地域が世界水準の観光地形成に向け取り組む中、広域観光の周遊性向上が課題。

○当該地域は高度医療を北見市に依存しており、北見市への速達性が課題。

【政策目標】

◇安全かつ効率的な物流ルート確保による「地域を支える基幹産業の生産性向上」

◇周遊性が高く定時性の確保による「ひがし北海道の広域観光周遊促進」

◇医療拠点への速達性向上による「地域の安心できる暮らしを確保」

政策目標達成に必要な共通機能 「災害時にも機能する代替性の確保」

2. 対応方針（案）

【案②】別線・アクセス配慮ルート を対応方針（案）とする。

【理由】

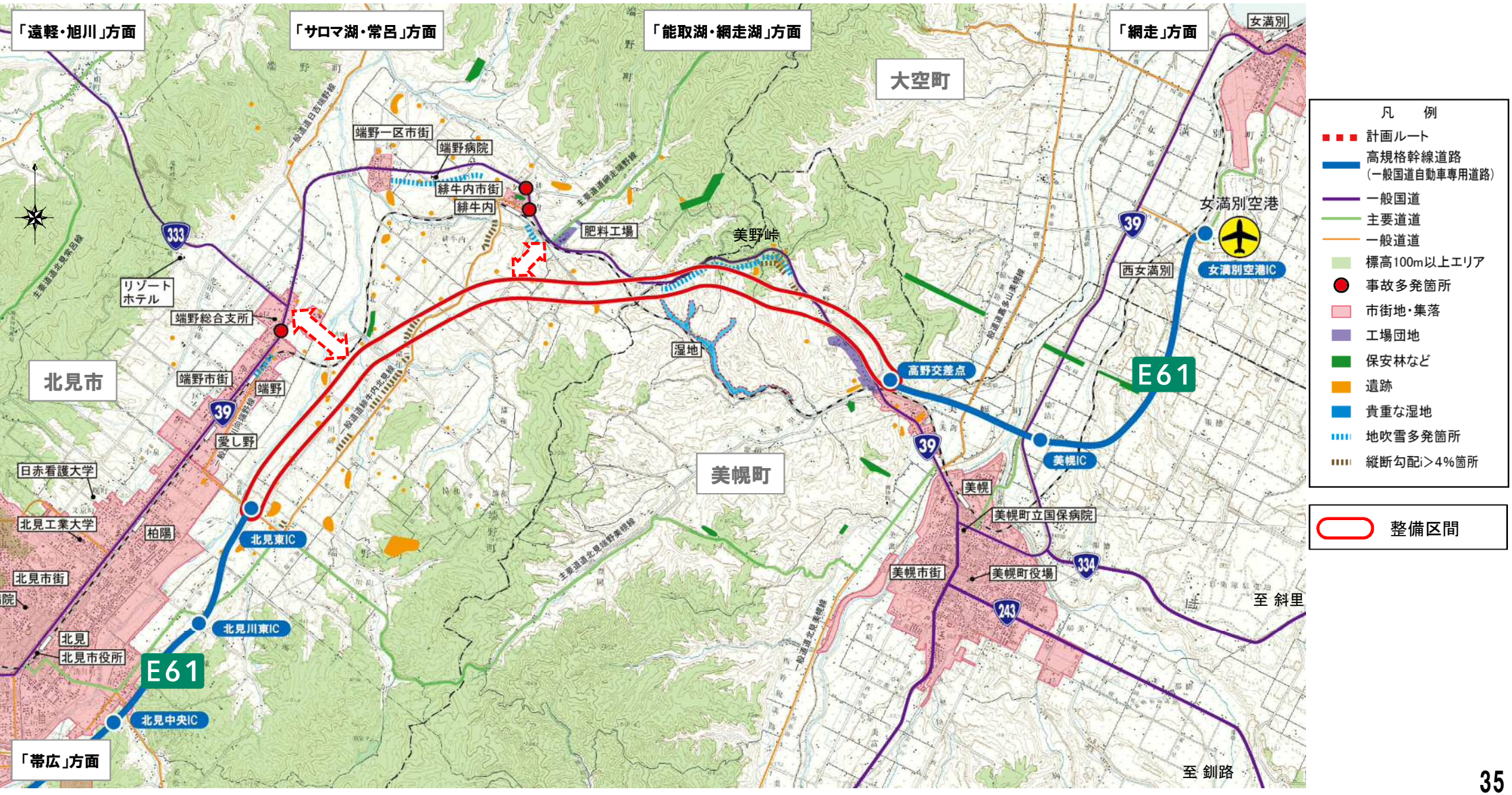
○【案②】別線・アクセス配慮ルートは、【案①】別線・短絡ルートおよび【案③】現道活用・一部バイパスルートに比べ、全ての政策目標において、同等以上の達成が見込め、優れている。

○ 地域意見聴取の結果、政策目標の達成のためには、「地吹雪の発生箇所の回避」、「各方面（国道333号や道道網走端野線）へアクセスしやすいこと」がアンケート及びヒアリング双方で重視されており、また、事業にあたって配慮すべき事項として「自然環境への影響が小さいこと」、「工事中の交通規制により影響が小さいこと」が重視されていた。【案②】は地域が望む重視・配慮すべき項目に適切に対応可能である。

○ インターチェンジの詳細な位置や構造については、地域意見聴取の結果を踏まえ、市街地や主要な幹線道路へのアクセス性、物流拠点や高次医療施設への速達性、観光交流の促進等に寄与する配置を検討する。

3. その他

○ 今後の詳細な道路構造等の検討にあたっては、地域への影響、自然環境への影響、工事中の影響、経済性等に配慮しながら計画を進める。

5-2）対応方針(案)

○自然環境への影響に配慮し、全線で新たな自動車専用道路を整備。
○地吹雪の発生箇所を回避でき、各方面（国道３３３号や道道網走端野線）へのアクセス性に優れる「案② 別線・アクセス配慮ルート」で整備。